

## Ⅱ 教育課程

## 第4分科会 知性・創造性

## ■ 研究課題 ■

## 知性・創造性を育む教育課程の編成と校長の在り方

## 分科会の趣旨

学校は、子どもたちに「生きる力」を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識や技能の習得、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成に向けて取り組むことが求められている。そのため校長は、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善を進め、実施上の諸課題の解決につながる方策を明示し、組織として改善することに努めてきた。

こうした取組に加え、先行きの不透明感や閉塞感が一層強まる中、21世紀を生きる子どもたちに、困難に立ち向かい、たくましく生き抜く力を育む取組を進めることが重要な教育課題となってきた。単に知識の獲得だけでなく、目の前の課題や近未来的な課題の解決に向けて、獲得した知識を活用し、柔軟な思考や粘り強さと先見性をもって解決に当たる能力、つまり、新しい知恵やものを生み出すしなやかな知性と豊かな創造性を身に付けることが求められている。

そこで、校長は、柔軟性や粘り強さ、先見性をもって解決に当たる能力や新しい知恵やものを生み出す力をつける教育課程の成果と課題の把握に努め、その結果をもとに、教育課程の改善を図り、21世紀を生きる子どもたちに必要な資質・能力・態度を育成する創意ある教育の推進に向けて積極的に取り組むことが重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善について具体的方策を明らかにする。

## リーダーシップの視点

## (1) しなやかな知性と豊かな創造性の育成

子どもたちが、様々な変化や課題に立ち向かい乗り越えるためには、自ら獲得した知識・技能の中からその状況に応じて必要なものを活用し、先の見通しをもって課題を解決していかうとする柔軟な思考や粘り強さと先見性を身に付けさせることが必要である。

そのためには、学習指導が柔軟な思考や粘り強さ、先見性につながるものとして展開され、その内容の充実を意図した評価に取り組み込まなければならない。

このような視点から、しなやかな知性と豊かな創造性を育む学習指導と評価の在り方を明らかにしていくための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

## (2) しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

子どもたちに今日的な課題を克服していく力を身に付けさせるためには、全教員が子どもたちに育成すべき資質・能力・態度について共通理解を深めるとともに、そのために必要な学習指導の工夫や教材の開発について協働して取り組み、実践の結果を基に教育課程の見直しを常に図っていく仕組みを確立する必要がある。

そのために校長は、しなやかな知性と豊かな創造性を育むための教育課程編成上の課題を明確にし、実践を通して課題解決を図っていく教員の意欲を引き出し、絶えずより望ましい学習活動の展開に向けて評価・改善を促すようにすることが大切である。

このような視点から、しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程を編成・実施・評価・改善していくための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第4分科会

研究課題：知性・創造性を育む教育課程の編成と校長の在り方

研究発表

確かな学力を育成できる学校づくりに向けた  
校長の在り方（指導性）

日高地区 日高町立門別小学校 久住 勉

I 趣 旨

東日本大震災後の避難所の生活で人々の心を和ませたのは、子どもの笑顔であったと聞く。今なお避難生活をされている方や復興に携わっている方に思いを馳せ、人と人とのつながりを大切にし、子どもの笑顔があふれ、元気な声が響き渡る学校経営を行うことが重要である。激変する先行き不透明な知識基盤社会において、次代を生き抜くために「生きる力」を育むことは、学校教育の大きな使命である。

日高管内においては、全国学力・学習状況調査の結果から、学ぶ意欲を高め確かな学力を育成することが最重要課題である。特に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるための教育課程の編成・実施・管理（評価）・改善に関する校長の在り方（指導性）が問われている。地区校長会は、平成24年度から2か年計画で「確かな学力を育成できる学校づくりに向けた校長の在り方」を研究主題に、学校改善プランの充実と実効性の向上、教職員の指導力の向上を目指し、教育課程の編成・実施・管理・改善に校長の指導性をどのように発揮するかを究明している。校長の指導性とは、「いつ」「誰に」「何を」「どう働きかけるか」である。

各学校では、「ノート指導の工夫、体験的・問題解決的な学習の充実、繰り返し指導の改善」を中心とした授業改善や家庭との連携による家庭学習の習慣化、生活リズムの確立を学校改善プランに位置付け、校長の指導性を発揮することが求められている。本研究は、地区校長会の取組を考察し、学校改善プランの実効性を高め、日高の子どもに基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、新しい知恵を生み出す原動力を培う校長の指導性を明らかにする。

II 研究の概要

1 日高地区校長会の研究

【研究課題】「確かな学力を育成できる学校づくりに向けた校長の在り方」

【研究の視点】

- ◎実効性のある教育課程の編成・実施・管理に向けた校長の指導性（教育課程）
- より実践力のある学校づくりに向けた校長のリーダーシップ（学校経営）

【研究仮説】

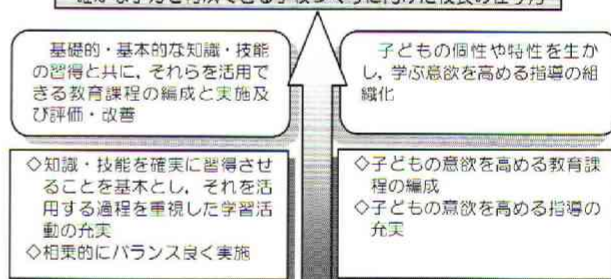
- ◎校長が、教育課程の編成・実施・管理において、自校の課題を明確にして有効な学力向上策を機能させることにより、教育活動の効果が高まるであろう。（教育課程）
- 校長が学校経営において、校内外の組織やシステムの整備、職員の意識改革を推進することにより、学力向上に向けた学校体制が強化されるであろう。（学校経営）

【研究の進め方】

各町校長会が「教育課程」と「学校経営」に分かれ、町校長会レベル、校長レベルの取組を明確にして研究課題の究明にあたる。特に、学校改善プランの実効性について研究を進めた。今年度は、2年計画のまとめの年である。

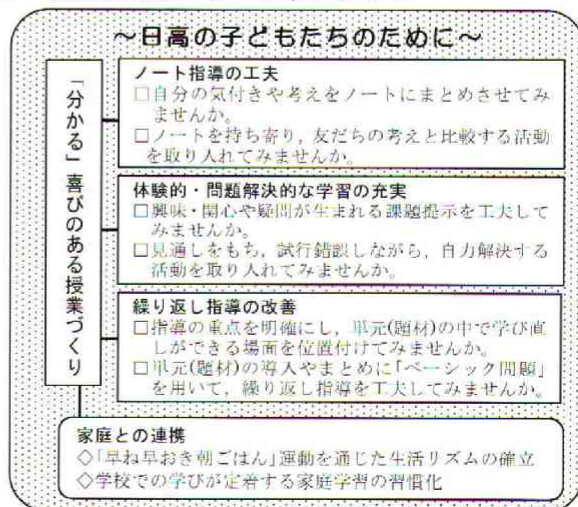
2 研究の構造

確かな学力を育成できる学校づくりに向けた校長の在り方



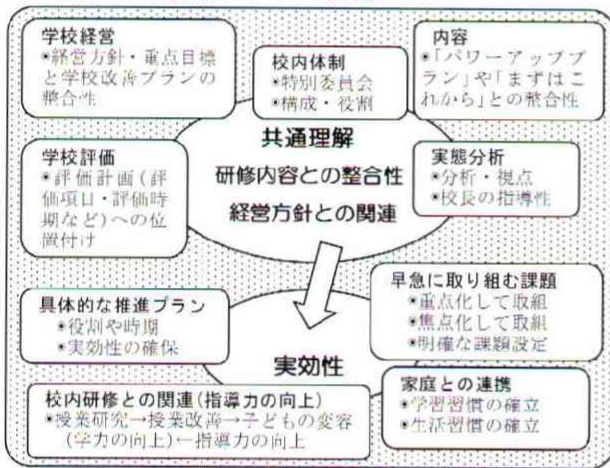
自校の学力向上のために校長として何をするのか

3 日高まなびパワーアッププラン



4 取組の具体

- (1) 日高まなびパワーアッププランとの整合性
- ① 学校改善プランの作成  
全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、課題を経営方針で明確に位置付けるとともに、課題解決の方策を共有するための校長の指導性
  - ② 学校改善プランの実効性  
日高まなびパワーアッププランとの整合性を図り、自校の課題の明確化・焦点化と課題解決に向けた方策の実効性を高めるための校長の指導性
  - ③ 学校改善プランの評価  
学校改善プランの保護者への説明や、学校評価における見直しにより、教育課程の改善を推進する校長の指導性
  - ④ 学校改善プランの構造



(2) 校長レベルでの取組

事例1 《A小学校 学校改善プランの具体》

- ① 校長の指導性…明確化
  - 累積されている過去の調査結果を基に、自校の課題を校長自身が把握…課題の明確化
  - 重点課題を基に担当役割、取組時期を明確にした方策を職員に提示…方向性の明確化
  - 教頭を指導し、全校が組織的に対応できる体制づくり…役割の明確化
  - 授業参観などにより、資料提示なども含めた一人一人に応じた具体的な指導…指導の明確化
- ② 過去の取組の検証
  - 過去の改善プランの評価  
学校評価(自己点検)項目に学校改善プランの内容の位置付け…教頭への指導
  - 研修内容との整合性  
授業改善と結び付く研修内容の方向性や具体的資料の提示…研修部への指導

方策	取組の具体	検証
個別指導 習熟度別指導	国語(1年・2年)、算数(全学年)でTT指導、算数(全学年)で習熟度別指導	○
繰り返し指導	学習過程に繰り返し学習の設定	○
補充学習 発展学習の工夫	まとめでのプリントの工夫 家庭での学習の個別化	○
言語活動の工夫	ノート指導の充実 自分の考えを発表する場面設定	◎
読書の充実	低学年読み聞かせ(毎週木曜) 全学年読み聞かせ(年3回) 週3回の読書タイム(朝) ボランティアとの連携	◎
学習習慣の定着	系統性を踏まえた学習のきまりの定着 宿題・日記指導の継続	◎
校内研修の充実	全学級公開授業 実践発表会の実施	◎

◎極めて効果的 ○効果的であるが改善が必要 △効果なし

③ 重点課題の共有と取組

- 研究教科との整合性
- 担当や時期の明示

課題	取組	担当	時期
学習課題の明確化	研修内容の充実 授業改善資料の提示	研修・担任 教頭	通年 年5回
学習過程の改善	研修部への指導 授業参観による指導	教頭 校長・教頭	随時 10回以上
ノート指導の充実	研修内容の実践	研修・担任	通年
習熟度別指導	まとめでの活用	教頭・TT	通年
児童アンケート	実態把握	評価委員会	5月11月
保護者への啓発	参観日での説明 学校だより	校長 教頭	4月2月 毎月
読書習慣の確立	朝読書設定の継続 読み聞かせの継続 ボランティアとの連携	教務 教務 教務	通年 年3回 随時

(3) 町校長会レベルでの取組

事例2 《B町 教育向上対策委員会》

- ① 課題の把握…全国学力・学習状況調査及び標準学力テスト結果の分析
  - 課題…国語「書く力」、算数「技能」  
各学校は、授業改善のため、組織的に具体的な取組を推進⇔各学校の方策の交流(年2回)
- ② 基礎到達目標(各学年)の設定・評価・分析・活用
  - 目標に合う問題(アンケート)を年2回実施
  - 校長を中心に教育向上対策委員会が問題を作成
  - 分析結果を各学校の改善に役立てる
- ③ 家庭学習の達成目標を設定した改善策を提示
  - 目標達成に向け、家庭学習チェック表(保護者への働きかけを含む)の取組を全学校で実施
  - 達成状況の把握(年2回の調査を実施)
  - 調査結果を活用し各学校が授業改善

- ④ 先進校の視察（2年に1回）
  - 具体的な取組方法を学ぶ・情報収集
  - 町内の全教員を対象に報告会を開催  
優れた実践の還流⇔各学校の授業改善
- ⑤ 校長の指導性
  - 事前に校長会が教育委員会と調整
  - 学校経営案や教育課程、学校改善プランに反映させることによって校長の指導性を発揮
- ⑥ 教育委員会による町民への周知…広報
  - 教育向上委員会の取組内容も含め、地域住民や保護者に児童生徒の学力向上策の啓発

### 事例3 《C町 指導力の向上》

- ① 校内研修の充実
  - 学習指導の重点目標を具体的に設定…経営方針で指導内容の具現化→教育課程の工夫改善
  - 職員への意識付け…全ての教育活動の源は「教職員研修」であることの明示
  - 巡回指導教員、広域人事教員の活用…校内研修などにおいて広い視野で話し合いを推進、他管内から赴任した教頭の新たな視点での指導
  - 公開研究会、地域参観日、学校公開ウィークの実施…校内の研修成果を積極的に発信し職員の意欲化の醸成
  - 研修計画立案時に校長が積極的に関与…研修部の主体性を尊重しながら、研究の方向性の明示
  - 指導主事の積極的な活用…複数回の実施
- ② 町教育委員会と連携した現職教員研修会の実施
  - 学力向上のために必要な研修会の企画・推進
  - 先進地域の視察研修及び還流
- ③ 学校職員評価制度や学校評価の活用
  - 教職員との中間面談…一人一人の適切な評価（成果と課題を具体的に提示）による意欲化の向上
  - 校長が授業参観を実施…児童生徒の学習意欲の喚起や基礎・基本の定着への取組を認め、指導方法の具体的な指導
  - 学期ごとの評価・反省…実態を的確に振り返り、個々の課題を明らかにさせ、自ら授業改善に取り組ませるような個別の指導

### 事例4 《D町 家庭学習習慣の確立》

- ① 具体的な取組
  - 各学校の「家庭学習の手引き」などの交流
  - 「家庭学習時間調査」を町内全校で実施
- ② 校長の指導性
  - 家庭での学習習慣を身に付けさせるため、各学校で児童生徒の「家庭学習時間調査」を実施（2学期と3学期末）
    - 学校の実態を把握し、実態に応じた取組の推進
    - 実態把握と同時に、全職員の意識向上

- 教育委員会との連絡調整…町全体の取組
- ③ 町校長会としての成果（○）と課題（△）
  - 家庭学習定着に向けて、実態を調査する意義を粘り強く説明し、教職員に理解させることができた。
  - 家庭学習の実態が明確になり、学校全体で今後の方向性を確認し、家庭との連携強化を図る具体策を講じることができた。
  - “チーム学力”の校長が委員会との調整を行うことで、全町的な取組として実施することができた。
  - △授業改善に結び付く家庭学習内容の改善を図るための指導性が必要である。
  - △より一層の家庭学習の定着を目指し、家庭学習の取組方法の改善を図るための指導性が必要である。

## III ま と め

### 1 成 果

- (1) 確かな学力の定着のために、地区校長会として組織的に方策の具体を検証することにより、教育課程の改善を図る校長の指導性が明らかになってきた。
- (2) 実効性のある学校改善プランとするために、「日高まなびパワーアッププラン」を位置付ける学校が増えることにより、校内研修の充実とともに授業改善を目指す校長の指導性が明らかになってきた。
- (3) 言語活動を取り入れた授業改善のために、学校職員評価制度の面談や日常的な授業参観で個別の指導を行うことにより、教育課程の改善を図る校長の指導性が明らかになってきた。

### 2 課 題

- (1) 教科の年間指導計画のより一層の改善のために、言語活動や学習評価を位置付けるなど、課題を明確にした方策を具体化する校長の指導性が必要である。
- (2) 教育課程のより一層の改善のために、「繰り返し指導」を明確に位置付けるなど、年間計画の見直しを学校評価の観点にする方策を示す校長の指導性が必要である。
- (3) 学びの環境づくりのために、学習習慣の確実な定着や生活習慣の定着を図るなど、町教育委員会と連携を深め、保護者とも共通認識に立った取組を具体化する町校長会の組織的な取組が必要である。
- (4) 大幅な校長交代期（1/3が交代）に対応するために、組織的に学校経営や教育課程の編成に関わる資料の累積など、長期的な展望をもった地区校長会の組織的な取組が必要である。